



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～
《学校だより 6月号 巻頭言》

令和8年5月29日(金)
発行：摂津市立別府小学校
校長 河平 浩一

～「つながり」が子どもたちの未来を支える～

私はほぼ毎日自宅から歩いて出勤しています。先日、朝、別府小学校に向かって歩いていると、登校中の子どもたちが、音楽の教科書を広げ、歌を口ずさみながら、歩いていました。その歌声は、とてもさわやかで、これから始まる一日の力を私にくれました。「素敵な歌声だね」と声をかけると、その子どもたちも、嬉しそうに笑顔で答えてくれました。

また、毎朝校門の前に立ち、朝子どもたちを「おはようございます。」と迎えています。その中で5年生の男の子たち数人は、私に「おはよう!」と、思いっきり走ってきて、元気いっぱい笑顔で体当たりをしてくれます。それを私は思いっきり受け止め、「おはよう!今日も力強かったね!」と笑顔で返します。

校長として別府小学校に来て、毎日子どもたちと朝、笑顔であいさつができること、本当に幸せだなと感じています。こんな素敵な日常がこの別府小学校にはあります。

さて、早いものでもう6月に入ります。少しずつ蒸し暑さを感じる季節となってきました。その中でも子どもたちは、毎日元気に外で遊んだりしながら、友だちとの関わりを広げながら、日々の学校生活を送っています。

6月6日には土曜参観を予定しております。当日は、3時間目に引き渡し訓練を行うとともに、今年度は、4時間目にPTA行事として、「防災」をテーマにした取組も実施します。ぜひご参加ください。

近年、地震や豪雨など、大きな災害が全国各地で発生しています。災害は、いつ起こるかわかりません。だからこそ、「もしもの時にどう行動するか」を、学校だけでなく、家庭や地域でも考えておくことが大切だと感じています。

防災で大切なのは、「備えること」だけではありません。いざという時に、「声をかけ合える関係」があること、「助けて」と言えること、そして「助け合えるつながり」があることが、子どもたちの安心や命を守ることに繋がります。ぜひこの機会に、ご家庭でも、「避難場所はどこにするか」「連絡が取れなかった時はどうするか」など、もしもの時の行動について、子どもたちと一緒に話し合っただければと思います。

また、5月26日には、第1回学校運営協議会を開催しました。地域・保護者・学校それぞれの立場から、「子どもたちのためにどんなことができるか」について意見交換を行いました。

「子どもたちが地域をもっと好きになれるようにしたい」「地域行事に子どもたちが参加できる機会を増やしたい」「地域の人と子どもたちがつながる場をつくりたい」などの意見が出されました。みなさん、本校の子どもたちのために何ができるか、子どもたちへの温かい思いをもって、真剣に考えていただいていることを強く感じました。

学校だけで子どもたちを育てることはできません。地域の中で、多くの大人と関わりながら育つ経験が、子どもたちの安心感や自己肯定感、そして「自分も地域の一員なんだ」という思いにつながっていくのだと思います。

私自身も、今年度から地域の自治会の本部役員(書記)を務めることになりました。自治会活動に関わる中で感じるのは、「地域のつながりを大切にしたい」と願い、思いを持っておられる方は確かにいるということです。ただ、「地域のために何かしたい」と思っている、そのきっかけが少なく、どう関わればよいかわからないという現状もあります。

本校では、そのきっかけを少しずつつくっていききたい。そうすることで、子どもを中心に保護者や地域の方が互いのことを知り、声を掛け合い、できる人ができることを少しずつ行っていく。その積み重ねが、子どもたちにとって安心して温かい地域につながっていくのだと感じています。

本校がめざす「誰もが楽しく幸せに過ごせる学校」は、学校だけで作るものではありません。保護者の皆様、地域の皆様とともに、子どもたちを真ん中に置きながら、つながりの輪を広げていきたいと考えています。ぜひ、地域行事やPTA活動、学校行事にも、無理のない範囲でご参加・ご協力いただければ幸いです。子どもたちが、「たくさんの大人に支えられている」「この地域で育ってよかった」と感じられるよう、これからも保護者・地域の皆様とともに歩んでいきたいと考えています。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

